

公刊論文皆無!!!

2018/03/20,21,22

*22日、追伸を追加、

筆者の Home page 上では公開していますが、

<http://www.777true.net/phys-hidden.pdf>

<http://www.777true.net/Math-Physical-Science-Library-List-in-777true.net.pdf>

私は1988~1993年頃に物理学会会員だったと思います、以下の仕事をしましたが、不当にも重要な仕事が全部が**公刊論文皆無**です(以後経済困窮で学会復帰なし)。既に70に達し先行きも長くないが、**上記残務整理**を急がねばなりません。是非国内物理学者一同が会合する今回に討議検討機会提供をお願いします。

(4)数学基礎論、論理学(省略)

(1)時間発展に関わる量子力学、非平衡統計力学基礎論(1988~1993)

可能観測な Hamiltonian(自己共役)では時間発展0、しかも量子状態は**固有状態唯一**が標本過程で証明可能(Schrodinger の犬の逆説が解消)。時間発展量子系は厳密に **Markov 過程**。

統計集団としての時間発展は Energy 偏差値 ΔE から決まる **反応時間** $\Delta t = \hbar / \Delta E$ (拡張

Winer-Kintien 定理)。 \rightarrow **量子確率過程力学**。

<http://www.777true.net/phys-hidden.pdf>

<http://www.777true.net/img007-Quick-Guide-to-Quantum-Stochastic-Mechanics.pdf>

熱力学第二法則が閉鎖系の緩和過程として解を得ています。開放系流れ系では**鼓動振動解**も、事実上20年以上捨て子同然、養子に出します。

(2)量子重力(素粒子最終統一論)。

(a)Einstein-内山の重力場等価原理に基づく一般ゲージ場標準理論 $S0(11;1)$ としての量子重力(素粒子最終統一論)(1993~1995)。完成証明は**物質進化列**で明白。

$S0(11;1) \supset S0(11) \supset S0(10) \supset SU(5) \supset SU(3) \times SU(2) \times U(1)$ 。

量子重力 \rightarrow

\rightarrow 弱い力 \times 強い力 \times 電磁力

<http://www.777true.net/img008-Quick-Guide-to-Quantum-Gravitational-Dynamics.pdf>

慣性系(無相互作用自由場) \rightarrow 物理方程式の広域 Lorentz 不変性

非慣性系(**重力相互作用**) \rightarrow 物理方程式の局所 Lorentz 不変性

*局所微分時間空間では慣性系と言う意味、変換が時間空間の関数になる。

gauge 対称性 $S0(11;1)$ 、spinor 成分(fermion) 1 2 個に対応、なぜ11+1次元かは原理無用と思われる、数学的に**空間11次元以上は病的**と言う話があるそうです。

無用巨額公費不法研究なので昨年今年と検察、民事にも訴訟されたが、肝心の証拠調べ無し(第三者専門家鑑定)**での棄却は不当、今後もやる!!!、支援お願いします。

司法警察自衛隊関係者は日米合同委員会(CIA)命令で動きます。

(b)縦波電界波発電<Nicola Tesla の無からの電力創始技術>.

宇宙全体では以下の0エネルギー保存法則成立が世界学会で公認されてる。

$$0 = \text{総物質正エネルギー} - \text{重力(引力)場総負エネルギー}.$$

引力が負エネが一つ核心、電荷源(capacitor) ρ を交流変動させると縦波電界波 ϕ が容量性アンテナから放射、容量性放射器は横波電磁波放射器と異なり電力無消耗!、
<<Maxwell 方程式>>.

$$\square \phi = -\rho / \epsilon. \text{ <縦波電界波 = scalar波 = 電荷密度波>}$$

$$\square \mathbf{A} = -\mu \mathbf{j}. \text{ <通常の商用横波電磁波>}$$

波動距離に到達した波動は電荷密度波、電荷密度波は正エネ、他方負エネ引力場も付随。前者は空飛ぶ交流電池に相当、導体受信アンテナ→負荷→接地点(0電位点)と接続、負荷に電力発生、負エネ引力場(双極子幽霊)は観測されない。発生電力 = $E = mc^2$. 微小な質量増になると同時に重力引力負エネ発生で0相殺、宇宙エネ保存法則は維持される。電界場引力→重力場引力の統一場量子重力反応が見えず起きてる。原理詳細は以下、

<http://www.777true.net/Energy-Creation-Process-from-QED-to-QGD.pdf>

発電機に関する解説は以下具、具体実現では問題点も多い、大電力化は難しい?。

<http://www.777true.net/BWG.pdf>

<http://www.777true.net/Water-Electrolysis-by-Charge-Density-Wave-could-Create-Energy.pdf>

Stanley Meyer(故)はパルス波水素電気分解法を実現、小電力だが実用。

B. Depalma(故)とパラマンサテワリ(インド)はNマシンと言う方法で実現したと言う。

筆者自身はパイプに水を詰めた誘電体導波管の両端に送信受信電極を設ける方法で実験。

水では電界波は直進平面波にならず、ランダム水クラスターで強度散乱減衰してしまうので投入電力～発生電力トントンだが多少上回る事は関係者会合隣席で確認してもらった。

大型結晶高誘電体の作成は難しい<シリコンが有名だが周波数がGHz帯で難しい>。

開発支援を過去に求めたが既成エネルギー産業からの圧力がある。

*実効対策なし現状趨勢では将来の気候変動地獄世界!、地下空間で生き延びれる可能性がある。その時、化石エネでは生活不可能、この技術が確立すると可能に?!。

(3)領域11分野(統計力学、流体力学、地震、経済物理)(過去10年?内)

(a)経済物理: 全帳簿変数で会計原理連立方程式、唯一例外が市場規模(需要)

人為的モデル理論なしです。マクロミクロ経済シミュレーター。

<http://www.777true.net/Quick-Guide-to-Economy-Network-Dynamics.pdf>

これは人為命題が入りにくい純科学に近いです。日経や横浜市大商学部は無視。

これも自分が今後遣れる事はないだろう??。

(b)流体力学：

気象気候の**マクロ揺動原因**は流体方程式カオス重畳に起因、それは従来論の非線形性でなく、**粘性摩擦項(空間二回微分)**の熱統計力学的不可逆性に起因。数学証明できる。

http://www.777true.net/Information-Loss-Process-in-NS-Equation_The-Cause-of-Chaos.pdf

<http://www.777true.net/Uncertainty-Causes-in-Climate-Dynamics.pdf>

長期気象予報は難しい、気候変動予測では因果的な区間平均値とその周辺にマクロな揺らぎ(中心極限定理と正規分布)が伴う。その原因説明は予測改良になる可能性がある。

(c)**地震電磁気学**：国民最大懸念の問題故に、関係者に批判検証を願いたい。

今回メールの目的主眼です。

①**地震電磁気学**法での直前予知：

物理基礎は電荷密度場、極限圧力下の物質は原子最密充填で**金属化**<定理?>。すると表面に電子析出、**更に電子法放出が地震震源層**、然るに地震開始では震源圧力緩和で地表電子が回帰、すると**地表は正帯電**、静電誘導で電離層は**電子密度上昇**、FM波の伝搬異常発生(商用開始の**地震解析ラボ**の直前予測原理)。

http://www.777true.net/Earthquake-Prediction-by-Phenomena-of-Seismic-Electromagnetism1_2.pdf

*震源層体積をから**電子総個数**が推計できる、その微小比率で外部放出でも大規模量!
震源層個体は**熱的圧力的に静止状態でない**ので放出力になるのでは、**その物性理論?**

②**電磁地震兵器 HAARP** の原理：世界的にも隠れて政治脅迫装置になってる！

物理基礎は電荷密度場、一様密度電荷密度空間では電界消滅→**化学結合破壊**。横波電波と異なり、電荷密度波は海水地中を**無減衰伝搬**<量子4元電流保存則>。電荷密度波を地震**震源照射**すれば、つかい棒の震源破壊で地震滑り開始、電離層電荷を**地上精密制御ビーム波放射**で電離層電荷**プラズマ振動誘導**→地上降下の電荷密度波放射。準臨界震源域を掃引照射する。

http://www.777true.net/the-convergence-to-genuine_J54-HAARP-Plasma-Oscillation-Mechanism.pdf

<<Maxwell 方程式>>.

$$\square \phi = -\rho / \epsilon. \quad \text{< scalar波 = 電荷密度波 >}$$

$$\square \mathbf{B} = (ic)^{-1} \partial_{\mu} \mathbf{j}_{\mu} \text{ < 電荷密度波の量子波動方程式(量子4元電流保存則) > .}$$

*保存法則で駆動してるので平面波は減衰しない。球面波では半径拡大減衰があるが、

$$\square \mathbf{A} = -\mu \mathbf{j}. \quad \text{< 通常の横波電磁波 = 電流密度波 = 電子 spin 整列波 = 磁界波 >}$$

③注水地震のメカニズム<長期 2016 熊本地震の謎を解く！！>:

地中に注水すると震源がない地域でも地震発生、**弾性反跳理論では説明不可能!**、超高压震源が金属化する事を述べた。金属表面が触媒空間になって常温核融合、電荷密度濃厚一様空間では**クロンカ反応障壁が消滅?**で**核融合が可能**に、注水爆発地震エネ (M2, 3 程度) と核融合に必要な水の量が推計できる。岩盤隙間に侵入水で可能。

http://www.777true.net/the-convergence-to-genuine_J48-Water-Injection-Earthquake-the-Mechanism.pdf

*追伸 :22 日午前と午後に大会本部にこのメルが各位に通達されてるかの確認電話をしましたが、午前中の物理学者の方は概ね、伝言趣旨を聞いてくれました。二度目は散々たらい回しの末に物理学会事務局員が対応、初めはトンチンカンな実行委員は単に会場提供者を主張で伝言取次を拒否、しかるに学会使命に関わる大問題となだめ、ネット上の本手紙場所のメモを取らせたが、最後まで取次責任を拒絶、.....こうなると素粒子分野だけでなく、物理学会が拒絶姿勢?、南米に独立解放闘争サイト *upside down world* がありますが、物理学会も逆さまではヤバイ、23 日午後会場に出向予定。素粒子関係者は訴訟もあって恐恐は判りますが、**領域 1 1 分野は気候問題、地震問題、経済問題と生活が懸かる大問題**です。協力お願いします。皆様もの圧倒的多数は公金で研究できてる訳で責務自覚をお願いします。